

# 全国大学反戦ストへ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2015年11月13日

No.339

Tel 03-3651-4861

mail\_cn001@zengakuren.jp

<http://www.zengakuren.jp/>

## 全国学生の11月集会感想!

### ▼沖大生

なんて明るい人たちなんだ——。今回はじめて全国労働者総決起集会に参加し、参加者のエネルギーに圧倒された。不当労働や不当解雇といった理不尽な攻撃を国や企業から受けてきた人たちが大勢いるにも関わらず、悲壮感がまるでない。そして誰もが怒りを胸に抱きながらもみな冷静で、どっしりと構えている。腹をくくった者だけがもつ爽やかな気品のようなものが会場に充満していた。労働者に無力感を与え、従順な駒へと変えるためにこれまで日本政府は謀略の限りをつくしてきた。しかし闘う労働者たちは強靱な意志でもってそれらをことごとく跳ね返している。「日本IBM・ビジネスサービス労働組合」仲宗根光洋書記長の演説を引用しよう。

「私は、今月24日に私の解雇が有効だという不当判決を、おそらく下されるでしょう。ですが、その判決がなんだというんだ! 私は絶対に諦めない! 自分の解雇を撤回することで階級的労働運動を沖縄でよみがえらせ、ゼネスト・革命へと駆け上がっていきたいと思います。全世界、全国の労働者のみなさん、ともに闘っていきましょう。」解雇をもってしても、あるいは裁判をもってしても労働者の力を奪うことはできない。それは社会的な地位や権力とは関係なく、人の内側から湧きあがってくる力だからだ。一人一人が持つ不屈の精神こそ政府がもっとも恐れているものだ。集会場周辺に動員された警察部隊の大軍がそのことを物語っている。

「全日建運輸連帯労組関西地区生コン支部」武谷新吾書記次長は、「相手に嫌がられるような、相手に脅威を与えるようなストライキが必要だ」と言った。すべての人が国にとって、資本家にとって、新自由主義にとって脅威となりうる力を持っている。そのことに気づくことから闘いが始まるのだ。私にその気づきを与えてくれたのが、今回の集会であった。私の闘いはここから始まる。



### ▼首都圏A大学学生

11月1日。日比谷野音は旗と人で溢れていた。「資本家どもの搾取を許さない…! 共に闘いましょう!」と力強いスピーチが続き、会場は一つに固まっていった。韓国、トルコ、ドイツ…世界中から、勇気のある人々が集っていた。どの国でも、同じ相手と闘っているのだ、と分かった。資本主義、新自由主義、大企業優先……挙げればキリがない。けれど、世界の主役は経営者でも政治家でもない。我々、一般市民なのだ、と訴えること。それは初步的なこと。なぜか日本ではその当たり前を表現するのに障壁がある。バングラデシュからの難民は、「日本は安全だし良い国だと思うけど、日本人なぜ寝てるんだ?」とマイク越しに語った。会場は笑いに包まれた。デモ行進は社会の主役は我々だ、と声を上げる機会。道路側には警察の壁、歩道側には公安がうろついていた。どうやら、警察の任務は市民を守ることではなく、体制側に押し込めることらしい。おかしいと思うことに、おかしいと言うと、おかしい目で見られてしまう日本のじめじめした空気の中、デモ行進は鮮やかで力強かった。勇気と団結。この二つの火を持ち続け、拡げること。それが、

どんなに素晴らしく明るいことだ、と気づかされた初参加の日だった。この火を着火点に、灯していきたい想いが強まった。

## ▼京都大生

集会ですごく感じたことは、今社会で起きている問題にそれぞれが身近なところで向き合うことと、それぞれの場所で闘っている人と繋がりを持つことを両立させるのがすごく大事だということでした。身近な活動を大事にしなければ、起きている問題に対して実行力のある解決策を提示することはできないし、他の場所で闘っている人と繋がることができなければ、より大きな力に勝つことはできないので、両方のバランスが大事なのだと思います。それぞれの現場で闘っている方の話が、個別具体的でありながらかつ、根底ではつながっていたことも印象的でした。それは資本主義による弊害という共通の課題があるからなのだと思います。

一方で、身近な所での活動と、世界的なつながりの両方を同時に大切にすることの難しさも感じました。私は一京大生ですが、京大で行われたバリケードストライキに対して、身近に同学会の活動を見ている人々の間には様々な思いがありました。そのストライキが、京大で同学会の周囲にいる人々の思いを飛び越えて、集会で日本

や、世界中の人に報告されてしまうことは、ある種の暴力性を含んでいると思います。

資本主義という共通の敵がいる一方で、個々人の立場や置かれている状況は多様です。それぞれの背負っている歴史性や、置かれている立場に寄り添った活動ができたらいなと思います。

## ▼東北B大学学生

今回の労働者集会で、トルコ人労働者の方々と、日本に住んでいるクルド人難民労働者の方々が団結を固める姿を見て、「労働者階級に国境はない」ことが身体で理解できました。トルコで、クルド系民族に対する排外主義が激化している背景にも関わらず見れた光景は、一種の感動を覚えました。また、労働者階級の敵は他民族や他国家ではなく、あらゆる差別を煽る体制—資本主義—であることが最実感できた集会だったと思っています。やはり私も両労働者に学んで、自らが活動拠点におく大学構内で、当局による差別運動—‘過激派キャンペーン’—‘—なんか徹底粉碎し、同じ階級たる学生と結合し、当局を震え上がらせるような運動を展開するぞ！’そう決心した11・1労働者集会でした。



### 【当面する行動方針】

#### ●武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判控訴審一判決

12月3日(木) 13時半～ 東京高裁にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

#### ●武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判控訴審・第2回

1月20日(水) 14時半～ 東京高裁822号法廷にて